

# 平成30年度 学校自己評価表

(計画段階・実施段階)

福岡県立門司学園中学校長 印

学校運営計画(4月)		評価(3月)		
学校運営方針		併設型中高一貫教育校の中学校として、中高それぞれの教員が相互に連携し、その特性を最大限に生かす6年間を見通した教育課程を確立し、100年後に繋がる確固たる礎を築く。		
昨年度の成果と課題		年度重点目標	具体的目標	
<p>昨年度も、中高合同の研修会等を複数回開催するなど、積極的に中高連携を推進し、6年間を見据えた教育活動展開のための環境づくりに努めてきた。その中で、主体的・対話的で深い学びの実現のために行った、指導方法や授業評価方法の研修は、中高双方の教員にとって有益な交流となった。その他にも、学校の特性を生かしたカリキュラムの検討や生徒会活動の活性化、中学校や塾への広報活動の強化などが進み、成果も上がっている。</p> <p>しかし、学校を取り巻く環境の変化は著しく、今後も検討・改善を必要とする課題は多い。特に、大学入試改革に伴う教育環境の変化への対応、新学習指導要領実施を踏まえたカリキュラムの作成、通学環境の整備、広報活動の更なる強化などは喫緊の課題であると考えている。これらの課題の一つひとつ丁寧に対応していくのと同時に、中高一貫教育校の特色を一層生かしながら、職員が一丸となって本校教育目標を達成すべく活発な教育活動を展開することで、生徒・保護者・地域から信頼される学校づくりを目指す。</p>		学力向上策実践と授業改善	6年間を見通した教育課程により、進路実現を支える確かな学力を身につけさせ、主体的・対話的で深い学びを実現するため、指導方法・授業評価方法の研究・工夫・改善に努め、魅力ある分かる授業、学力を高める授業を展開する。	
		キャリア教育・進路指導の充実と進路保障	門司学プランに沿った生徒の可能性を広げるキャリア教育及び難関大学をはじめとする上級学校進学を実現する学力養成のための講座や小論文・面接指導などの表現力や英語力を備えたグローバル人材を育む進路指導を充実させ、一人ひとりの進路実現を支援する。	
		心を育てる道徳教育の充実と部活動の振興	教育活動全般において「鍛ほめ福岡メソッド」を取り入れ、自他を認め合い、相手の気持ちを思い遣ることができる人権感覚と自尊心・自己肯定感・人命尊重の精神を育み、全人教育を推進する。	
		心と体の健康教育の推進	日頃からの生徒の見守りにより状況把握に努め、課題を抱える生徒の早期発見・早期対応による支援体制を確立し、授業や部活動を通して心身ともに健康な生徒を育成する。	
		教育活動の一層の魅力化と広報活動の充実及び地域との連携	学校行事等の内容を更に充実させ、学校の「魅力化」とそのアピールに努めるとともに、地域や同窓会とも連携して教育活動の一層の活性化を図る。	
		高い教育効果を発揮する教員集団づくり及び人材育成	中高教職員一人ひとりが意欲的・積極的・協力的に、建設的な意見交換・提案を行い、「チーム門司学園」として、常に生徒のために本校教育活動に貢献していく組織の充実を図る。将来にわたって本県の教育を担う教員としての人材を育成する。	
施設・設備等の教育環境整備	生徒が安全・安心な環境の中で、快適に充実した学校生活を送り、学習活動を行うことができるよう、施設・設備等の点検・維持・充実に努める。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
第1学年	基本的生活習慣の確立させる。	朝の会や帰りの会において、身だしなみを意識させる。 日々の活動において、時間厳守を徹底させる。		
	学習習慣を身に付けさせ、基礎基本的学習内容の定着を図る。	学級活動や授業において、提出物や課題を期限を守らせ提出させる。 学習計画表を活用し、日々の家庭学習を定着させる。		
	他者を尊重する意識を育て、お互いに認め合う集団の育成を図る。	日々の活動において、教師と生徒、生徒同士が気持ちよい挨拶を励行させる。 日々の清掃活動に友人と協力しながら積極的に取り組ませる。		
	自己実現を目指す意識及び進路意識を涵養し、意欲的に学ぶ力を育成するとともに、個性の伸長を図る。	総合的な学習の時間や学校行事に積極的に取り組ませる。 委員会活動や日直活動に積極的に取り組ませる。		
第2学年	基本的生活習慣の確立を図り、自主・自立の姿勢を育成する。	身だしなみを整える感覚を、朝の会や授業の始まりの際に意識させる。 あいさつについて、授業の始まりは元気な声を、校舎内の通行は丁寧なふるまいを意識させる。		
	学習習慣を身に付けさせ、基礎基本的学習内容の定着を図るとともに、進路実現を支える確かな学力を身に付けさせる。	学活や授業において、課題や家庭通信等の書類の迅速かつ確実な提出を意識させる。 授業や集会等の準備・集合について、時間を厳守することを意識させる。		
	進路意識及び自己実現を目指す意識の涵養を図り、意欲的に学び、考える力を育成するとともに、個性の伸長を目指す。	朝活動や帰りの会で、生活ノートや学習記録シートを使い、自身の学習状況の振り返りをさせる。 日々の係り活動について、責任をもって、確実に取り組むことを意識させる。		
	自他を認め合い、他者を尊重する人権感覚を育て、共に高め合う集団の育成を図り、門司学園中学校の生徒としての自覚と誇りを育む。	日々の清掃活動について、責任をもって、確実に取り組むことを意識させる。 毎週の道徳や総学の授業の実施について、学年職員全員でアイデアを出し工夫する。		
第3学年	リーダーシップが発揮できる生徒を育成する。	生徒会中央委員や総務委員を中心に、生徒会活動や学校行事に意欲的に参加させ、下級生の模範となる活動をさせる。		
	学習習慣の確立と家庭学習の定着を図る	始業時終了時のあいさつを徹底させることで、授業規律を定着させる。 学習記録シートを記入させることで、家庭学習等の習慣を確立させる。 定期考査前の「自習教室」や「勉強合宿」を実施し、学習意欲の向上を図る。		
	基本的生活習慣を定着させる。	「あいさつをする」「時間を守る」「場に応じた適切な言動をする」を学年の共通ルールとして身に着けさせる。		
	正義感を持ち、仲間を思いやる集団づくりに努める。	「道徳」や「学級活動」を通して、正しいことや間違ったことが伝え合えたり、思いやりをもって仲間に接したりすることで、学年・学級の団結力を深めさせる。		

# 平成30年度 学校自己評価表

(計画段階・実施段階)

福岡県立門司学園中学校長 印

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教務課	総合的な学習の時間、学校行事の充実を図り、魅力ある学校づくりを行うとともに、本校の特色ある教育活動の広報に努める。	学校行事等で学年横断的な異年齢交流を推進する。		
		卒業研究を柱とした総合的な学習の時間の充実と各教科・学年との連携を図る。		
		広報用プリントの定期的配布、ホームページと学校説明会の充実を図り、情報発信を強化する。		
		ICT機器の整備とICT機器を効果的に用いた授業を推進する。		
生徒指導課	基本的な生活習慣や規範意識の向上に取り組む。	中高の教員が連携し、6年間を見通した教科指導を展開するとともに、生徒の学習活動を重視した授業改善を図り、深い思考力・判断力・表現力を養う。		
		挨拶に対する意識を高めるとともに、服装・頭髪等の基本的な身だしなみの指導を推進する。		
		携帯電話の使い方に関するマナーやバスの乗車マナーの指導に取り組む。		
		規範意識育成教室の充実や教育相談活動により、いじめや非行の防止に努める。		
進路指導課	高校と連携した行事の活性化や生徒会活動及び部活動の推進を図る。	「学校いじめ防止基本方針」に基づいた未然防止の取組の推進と情報共有に努める。		
		中高連携で学園祭の企画・運営の改善に取り組むとともに主体的な生徒会活動を育成する。		
		中高連携による部活動運営の推進と高校部活動参加に関する条件整備に取り組む。		
		中高連携して、門司学プランの更なる充実・発展を図るとともに、門司学ライブ(大学等の出前講義)を高校と連携して計画的に行う。		
保健課	快適な学習環境の整備に努める。	中高連携して、門司学プランの更なる充実・発展を図るとともに、門司学ライブ(大学等の出前講義)を高校と連携して計画的に行う。		
		第3学年と連携して職場体験を計画的に行う。		
		サマーセミナー、ウィンターセミナー中の午後3年生を対象としたトップゼミを行う。		
		学力分析テストの資料を生徒に配布し、見方等を説明しながら活用させ、学習意識を高める。		
研修課	生徒の学習意欲を喚起させる取組を充実させる。	学習環境の点検と清掃活動を徹底させるために整美生活委員会を活性化させる。		
		学級担任及び教科担任と保健室の情報交換を密にし、生徒の健康情報に関して校内の共通理解を図る。		
		緊急時の避難経路および設備の点検を行うとともに、防災・避難訓練を計画し実施する。		
		心の問題の早期発見・対応に努める。		
研修課	教職員の自己研鑽に対する意識を高め、研修活動を通しての指導力向上を目指す。	スクールカウンセラーや訪問相談員と連携し、生徒と保護者が早期に相談できる体制を整える。		
		研究テーマを「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習過程における導入の工夫」と設定し、教員全員が授業研究に取り組むことによって授業改善を促進する。		
		教職員の研修・実践の内容を1年間の記録として整理し、その成果を掲載した研究紀要を年度末に発行する。		
		年間を通して授業見学期間とし、教職員が相互に授業参観することによって、指導方法の工夫改善に生かす。		
研修課	生徒の発達段階に応じた指導の展開や、思考力・判断力・表現力を確実に身に付けさせるための教科指導法等の研究の推進を図る。	年間2回の授業改善アンケートを実施し、その結果を分析し授業に還元することで、指導力向上を目指す。		
		新学習指導要領の内容や観点別評価方法などの評価能力の向上、情報リテラシーの向上等を目的とした研修会を実施する。		
		学習や生活において配慮を要する生徒に関する研修会を実施し、教職員間で情報を共有する。		